

ベンデ語（タンザニア・バントウ）Persistentive アスペクトの文法化¹

阿部 優子 <abe.yuko@tufs.ac.jp>
 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所)

〔本発表の概要〕

1. 背景：バントウ諸語における persistentive
2. ベンデ語の persistentive
3. Persistentive の文法化シナリオとベンデ語の位置
4. まとめと課題

1. 背景：バントウ諸語における persistentive

世界の言語に広くみられる 5 アスペクト（未完結、完結、完了、進行、習慣）は、バントウ諸語においても広く観察されるが、とりわけバントウ諸語に特徴的な第 6 のアスペクトとして「持続 (persistentive)」がある。Persistentive が主に指示するのは、過去に始まり発話時（現在）もまだ続けている「まだ～している」と訳されるようなものであるが、印欧語にないアスペクトということもあり、バントウ諸語文法の中でも（印欧語に影響された言語学者がテンス・アスペクトを混同するなどして）記述が十分でない、あるいは統一的でないことがある(Nurse 2003: 96-99)。バントウ諸語のテンス・アスペクトを包括的に扱った Nurse (2008: 145-148)は、persistentive が肯定および否定で実現されうるといふ。

バントウ祖語(PB)で動詞の基本構造は(1)のように再建されている。Meussen (1967: 108)などでは persistentive を **kí*-²と再建し、**kí*が現れるのは(1)の動詞構造の T(sense and Aspect)のスロットである。また、しばしばコピュラ動詞の **di* と共起する。

(1) PB 基本動詞構造 (Nurse 2003: 90, based on Meussen 1967:108)

Initial-Subject-Negative-T(A)-Object ≠ root-Extension(s)-Final-Suffix

Persistentive は、バントウ諸語で広くアスペクト標識として分布しており、Nurse (2008)の研究ではバントウ諸語の 56%ほどが **kí*-の継承形を持っている。これは習慣アスペクト標識の分布よりも高い数値で、バントウ諸語で persistentive がいかに広く浸透しているかを示すものである。Guthrie によるバントウ諸語の分類ゾーン（右図）について言えば、A, B, C ゾーンではほとんど見られないものの、E, F, N, R, S ゾーンでは部分的に分布が見られ、D, K, L, M ゾーンではほとんどの言語に見られるという(Nurse 2008: 145-148)。



¹ 本発表のための海外学術調査は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「言語の動態と多様性に関する国際研究ネットワークの新展開」プロジェクト（文部科学省特別教育研究経費）の助成を受けて行われた。

² Meeussen(1967)は第 2 母音（広母音）を *i* としているが(**kí*-)、Nurse (2003, 2008)等では IPA に倣い **kí*-とする。

2. ベンデ語の *persistive*

ベンデ語の *persistive* 標識 *sí-/syá-* もまた、(1)の動詞構造の基本的に T(A)スロットに現れる。ベンデ語の *persistive* 標識には、2つの形式、3つの意味、4タイプの構造があり、一部の構造は5時制すべての用法がある。

(2) 2つの形式 : *sí-* / *syá-* (*sí+á*)

sí- は T1 のみで *syá-* の自由変異として現れ、他は *syá-* のみ。 *Syá-* 形は本来の *sí-* + 完了標識の *-á*。

(3) 4タイプの構造 : (T2-1, 2-2, 3)は SM-*syí-li* ('be')という組み合わせに従属節/動名詞を続ける。

(T1) [SM-PER-VERB] (PER 形式: *sí-/syá-*)

(T2-1) [SM-PER-be + Present Simple] (PER 形式: *syá-*)

(T2-2) [SM-PER-be + Anterior] (PER 形式: *syá-*)

(T3) [SM-PER-be + Gerund] (PER 形式: *syá-*)

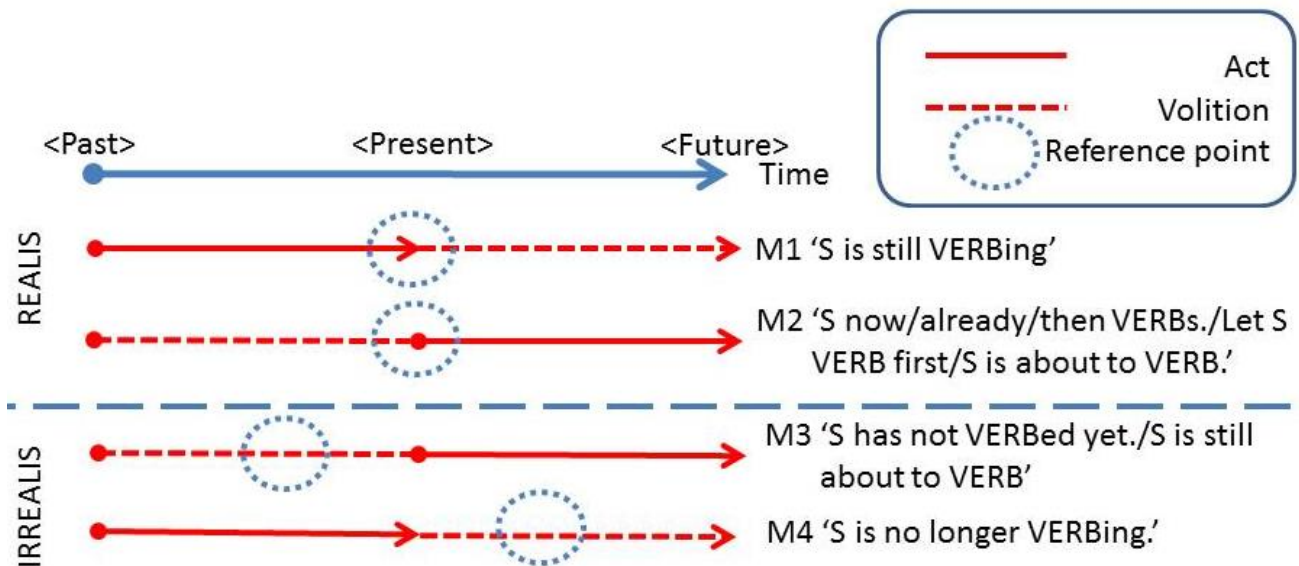
(4) 3つの意味 : M3 は否定辞を伴わない。

(M1) 「Sはまだ~している」 (T1, T2-1, T2-2)

(M2) 「さあまずはSが~しよう」 (T1)

(M3) 「Sはまだ~していない、~しようとしているところだ」 (T3)

(5) M1-3の指示内容



cf) [M4] *te-tú-kía-gul-a* 「私たちはもはや買わない (決して買わない)」 (ガンダ語 : J.15)

(6) 5つの時制 (SM: *tu-* 「1人称複数」、*-tendá* 「話す」)

	T1	T2-1	T2-2	T3
Present	<i>tustendá/tusyátendá</i> M1…まだ話している M2 さあ、まず話そう	<i>tusyálí tulikútendá</i> M1…まだ話している	<i>tusyali títensilé</i> M1…まだ話している	<i>tusyálí kútendá</i> M3…まだ話していない、 まだ話そうとしているところだ
Past 1	<i>tubheélé tusítendá</i>	<i>tubheélé tusyálí tulikútendá</i>		<i>tubheélé tusyálí kútendá</i>
Past 2	<i>tukábheélé tusítendá</i>	<i>tukábheélé tusyálí tulikútenda</i>		<i>tukábheélé tusyálí kútendá</i>
Future 1	<i>tulóóbha tusítenda</i>	<i>tulóóbha tusyálí tulikútenda</i>		<i>tulóóbha tusyálí tulikútenda</i>
Future 2	<i>tulookábha tusítenda</i>	<i>tulookábha tusyálí tulikútenda</i>		<i>tulookábha tusyálí tulikútenda</i>

Past 1 : 今日の過去、Past 2 : 昨日以前の過去、Future 1 : 今日の未来、Future 2 : 明日以降の未来

➤ 構造 (タイプ) ごとの例

Type 1. [SM-PER-VERB] (PER: *sí-/syá-*)

tu-sí-VERB / *tu-syá-VERB* ‘We are still VERBing.’ (M1;典型的 persistent) / ‘Let us VERB first.’(M2)

(7) Type 1 の 2 つの意味

tu-sí-kol-a / *tu-syá-kol-a* *mú-límó*

IPL-PER-do-F

CL3-work

‘We are still working.’ or ‘Let us work first.’

(8) T1/M1 「私たちはまだ仕事をしている」 vs. Simple Present 「私たちは仕事をしている (進行)」

a. *tu-sí-kol-a* *mú-límó*

IPL-PER-do-F CL3-work

‘We are still working.’

b. *tu-likú-kol-a* *mú-límó*

IPL-PRS-do-F CL3-work

‘We are working.’ (progressive, but w/o “still” connotation)

(9) T1/M2 「さあまずは仕事しよう」 vs. Subjunctive 「さあ仕事しよう」

a. *tu-sí-kol-a* *mú-límó*

IPL-PER-do-F CL3-work

‘Let us work, first.’ (それ以前の準備あり)

b. *tu-kol-e* *mú-límó*

IPL-do-SUB CL3-work

‘Let’s work! (Subjunctive; polite imperative)’ (命令的、話者の意志あり)

➤ M2 の報告がある言語 (Swati:S43, Lwena:K14, Masaaba:JE31 etc. あまり多くない)

(10) Swati の例 Alterative *se-* vs. Persistent *sa-* (Nichols 2011: 35)

a. ALTERATIVE

se-ngi-(ya)-phek-a

ALT-SC1sg-(DIS.PRES)-cook-FV

‘I now/already/then cook’

b. PERSISTIVE

ngi-sa-phek-a

SC1sg-PERS-cook-FV

‘I still cook’

✓ Alterative (change of state)の *se-*と Persistent の *sa-*はいずれも同源だが、スロットの違いにより alterative と persistent が区別される。

(11)Lwena の例 (Horton 1949:126、Güldemann 1997:163, 2003:192 より引用)

imana ngu-ci~tal-e mu-zuvo

wait-IMP 1S-PREC~look-SUBJ INE-house

‘Wait, let me look in the house yet; i.e., before anything else is done.’

Type 2-1. [SM-PER-be + Present Simple]

tu-syá-lí tu-líkú-VERB ‘We are still VERBing.’ (M1:典型的 persistentive)

Type 2-2. [SM-PER-be + Anterior]

tu-syá-lí tu-VERB-ílé {imbricated} ‘We are still VERBing.’ (M1:典型的 persistentive)

Type 2.は、[SM-PER-be]の後にもう一つの動詞要素を続けて複合動詞を作る。2つの変異形があり、どちらも同一の意味を指すとされるが、T2-2はその実現にいくつかの制限がある（現在時制のみで使われる0、T2-2の動詞末の音節に渡り音 *y* がある場合（例：-*lyǎ*, -*seésya*）、言うことができない(13)³）。

(12)T2-1 vs. T2-2（同一の意味の例）

tu-syá-lí tu-líkw-íkál-á (T2-1) tu-syá-lí tw-íké-élé (T2-2)

1PL-PER-be 1PL-PRS-sit-F 1PL-PER-be 1PL-sit-ANT

‘We are still sitting.’

(13)-*Cya* で終わる動詞（T2-2が言えない例）

*tu-syá-lí tu-líkú-ly-a (T2-1) *tu-syá-lí tu-li-ílé (T2-2)*

1PL-PER-be 1PL-PRS-eat-F 1PL-PER-be 1PL-eat-ANT

‘We are still eating.’

Type 3. [SM-PER-be + Gerund]

tu-syá-lí kú-VERB / tu-syá-lí nó = kú-VERB ‘We haven’t VERBed yet.’ (M3)

> ‘We are still about to VERB.’

このタイプは、否定で訳されることが多い(negative inference)。Sukuma (F21), Langi (F33), Bemba(M42)など、少数の言語で報告がある(Nurse 2008: 148, Güldemann 1998: 163)。

(14)否定「的」な T3

tu-syá-lí kú-kol-a mú-límó

1PL-PER-be GER-do-F CL3-work

‘‘We haven’t worked yet.’’ / ‘‘We haven’t started to work yet.’’

M3の意味を持つ用法は、多くの記述で否定辞を持たないものの否定ないし否定含意とされるのだが、Güldemann (1998: 163-164)は persistentive proximative (‘be still about to VERB’「まだ~しようとする」)

³ 通常の ANT（完了相）では、-*Cya* で終わる動詞にも -*ilé* を後続させることが可能 (*akáliilé ffsáká*. 「(昨日以前) トウモロコシを食べた」)。

と再解釈する⁴。

ベンデ語 *persistive* の問題点

➤ Type 1, 2-1, or 2-2?

T1, T2-1, T2-2 のうち、T2-1 が最も無標（制限なく使われる）。T1 は M2（さあまずは～しよう）での解釈が第一義的、T2-2 は実現に制限がある。

➤ M1 or M3? SM-syá-lí#, SM-syá-lí=LOC の解釈について

(15) SM-syá-lí# (SM-syá-lí 以下が省略されている場合) →M3 の解釈

<i>U-syá-lí?</i>	<i>n-syá-lí.</i>
2SG-PER-be (GER-cook)	1SG-PER-be
‘Haven’t you cooked (started to cook) yet?’	‘Not yet.’

(16) *Persistentive* + LOC (ただし慣用表現が多い) →M1 の解釈

<i>li-syá-lí=ko</i> ⁵	<i>n-syá-lí=ho</i>
CL5-PER-be=LOC17	1SG-PER-be=LOC16
‘The sun (CL5) is still there.’ (a greeting in daytime)	‘I’m still here.’

3. *Persistentive* の文法化シナリオとベンデ語の位置

Güldemann (1998, 2003)は、記述文法などから **kí-*を、構造の主節(*independent*) vs. 接続詞のない従属節(*asyndetic dependent*)と意味機能で分類し、(17)の文法化シナリオを提案した。このシナリオで、ベンデ語の *persistive* はどのような位置を占めるのか。

(17) *Persistentive* の **kí-* の文法化シナリオ (Güldemann 1998, 2003 を図式化、原著の *type* を *stage* に変更)

(Stage 0 >) Pre-Bantu >	Stage 1 > Bantu	Stage 2 >	Stage 3
<i>ké</i> (例 Tikar, Bantoid)	* <i>kí-</i> (例 Many Bantu)	* <i>kí-</i> (例 Bende, RwandaJ61, BembaM42, ShonaS10 etc.)	* <i>kí-</i> (例 SwahiliG42, VendaS21)
助動詞 ‘être encore’	主節のみ：未完結	主節：未完結、未完結以外 従属節：M1, 付帯状況	従属節のみ：付帯状況 条件 (もし～なら)

この文法化では語彙的なものと形態統語的なものに分けられる。語彙的なものは、バントゥ諸語以前とバントゥ諸語を分ける基準となり (Stage 0 とそれ以降)、バントゥ諸語内部では形態統語的な基準が適用されて、すなわち「主節のみ>主節/従属節>従属節のみ」(Stage1>3) と下位分類がされる。

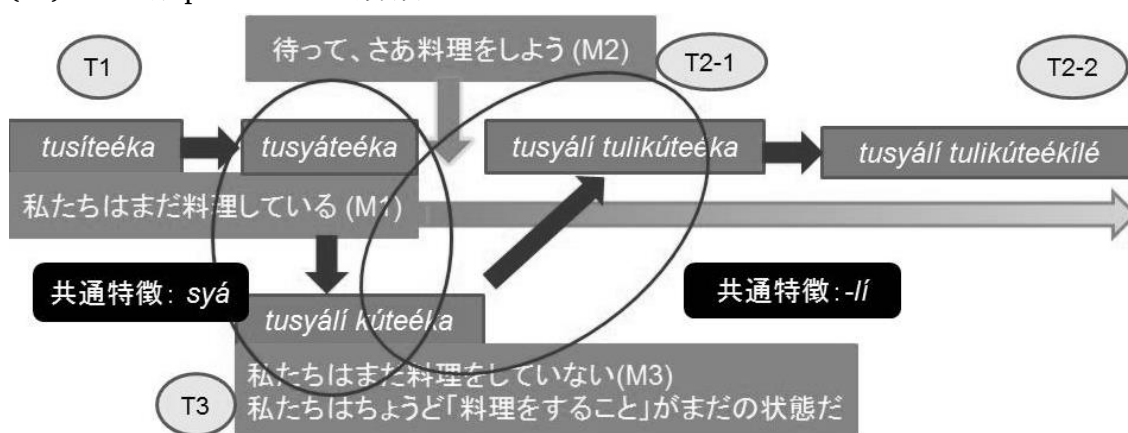
⁴ Güldemann (1998: 163-164)は、M1-3 は未完結という共通特徴を持ち、M1 は ‘be still VERBing’、M2 は ‘be about to VERB’、M3 は ‘be still about to VERB’ という多義語であると考えられる。

⁵ 類似表現として LOC のない *li-syá-gháká* (CL5-PER-shine 「まだ日が照っている」)も昼のあいさつに使われる。

ベンデ語 *persistive* のうち、T1 と T3 は主節でのみの用法と考えられ、T2-1, T2-2 は従属節となる。しかし従属節に典型的な用法である付帯状況や条件への意味的發展は見られない (例 Swahili: *Niliwaona watoto wakicheza* 「私は子供たちが遊んでいるところを見た」)。つまり、ベンデ語は Stage2 の初期段階、すなわち従属節中では *persistive* 用法のみが用いられる、というものである。

次にベンデ語の用法について、(18)のような発展段階を提案する。バントゥ諸語の *persistive* の分布から、T1/M1 が最も基本的なものである。T1 のうち、*tusíteéka* が *tusyáteéka* になるところから、T3 の *tusyáli kúteéka* 「私たちは『料理すること』がまだの状態である (-lí 「である」部分が *persistive*)」の形式が導き出される。さらに T1 について新たな意味 (M2) に押し出される形で、別の形式 T2-1、T2-2 に基本意味である M1 が乗る。また T2-1、T2-2 の形式は T3 の *tusyáli* 部分を引き継いでいると考えられる。

(18) ベンデ語 *persistive* 内的分類



4. まとめと課題

明らかにしたこと:

- ・ベンデ語 *persistive* の現状の記述。
- ・*Persistive* に関する文法化シナリオにおけるベンデ語 *persistive* の位置づけ。

課題:

- ・文法的アスペクトである *persistive* と動詞の語彙アスペクトの関係。
- ・意味の発展 (M1 > M4) の考察。
- ・バントゥ諸語における M2 の再検討 (未記述のものが多い)。

略号

ALT (Alterative), ANT (Anterior), CL (Noun class), ENC (Enclitic), EXT (Extension), GER (Gerund), F (Final), LOC (Locative), PER (Persistive), PL (Plural), PostSM (Post-subject marker), PreF (Prefinal), PreSM (Pre-subject marker), PROC (Proclitic), PRS (Present), SG (Singular), SM (Subject marker), SUB (Subjunctive), [-] (affix boundary), [=] (clitic boundary), 数字は名詞クラス

参照文献

- Güldemann, Tom. 1998. "The relation between imperfective and simultaneous tasis in Bantu. Late stages of grammaticalization" in Fiedler, Griefenow-Mewis, Reineek (Hrsg.) *Afrikanische Sprachen im Brennpunkt der Forschung*. Köln. pp.157-177.
- 2003. "11 Grammaticalization" in Derek Nurse and Gérard Philippson (eds.) 2003. *The Bantu Languages*. London: Routledge Language Family Series 4. pp.182-194.
- Meeussen, A.E. 1967. "Bantu grammatical reconstructions." in *Africana Linguistica* 3: Tervuren: Koninklijk Museum voor Midden-Afrika. pp.79-121.
- Nichols, Peter John. 2011. "A Morpho-semantic Analysis of the Persistent, Alterative and Inceptive Aspects in siSwati" A PhD. thesis submitted to SOAS, University of London.
- Nurse, Derek. 2003. "6 Aspect and tense in Bantu languages" in Derek Nurse and Gérard Philippson (eds.) 2003. *The Bantu Languages*. London: Routledge Language Family Series 4. pp.90-102.
- Nurse, Derek. 2008. *Tense and Aspect in Bantu*. Oxford: Oxford University Press.